

ATACの内容

本会は長年の経験により独自の技術とノウハウを有する技術者・管理者を結集し、お互いの知恵を出しあい、学習しあい、ネットワークを活用するとともに、中堅・中小企業が抱える国際化、技術開発、人材育成等の諸問題の解決を支援することにより中堅・中小企業の発展に資することを目的とする。
～ATAC規約第2条より～

1. コンサルティング

中堅・中小企業の抱えるさまざまなテーマについて600件のコンサルティング業務に携わってきました。

2. セミナー開催・講師派遣

従業員教育、経営管理、ISO関連、品質管理などのセミナーを企画・実施し好評を博しています。また、講演会・研修会などへの講師派遣も行っています。

3. 書籍刊行

- ・ATACの経営便利帳
- ・現場の課題解決はこうする(中堅・中小企業の業務改善事例)
- ・中堅・中小企業へのATAC提言集
 - ①新商品開発のヒント ②ISO9000 認証取得の手引き
 - ③ISO14001 認証取得の手引き ④中小企業のためのIT
 - ⑤材料選択の手引き ⑤設計を考える
- ・目からウロコのアドバイス ～中小企業経営者への提言～

4. NASCA(産学連携のお手伝い)

企業の技術ニーズをお預かりして、最適な技術シーズを持つ大学や研究機関などを探し、ご紹介する業務です。

5. 公的支援情報送信サービス

ご希望の企業に、国や府県等による研究開発補助金等の公的支援募集情報をタイムリーに分かりやすくe-mailやFAXで無料配信する業務です。

新たに公的支援情報送信サービスをご希望の企業の方は下記の申込書にご記入の上、**FAX (06-6443-5319)**でお申し込みください。

企業名	担当者
所在地	
TEL	FAX
E-mail	
<input type="checkbox"/> FAX <input type="checkbox"/> E-mail に送信希望いたします。	

書評

「クラカトアの大噴火 世界の歴史を動かした火山」

サイモン・ウィンチェスター著、柴田裕之訳 早川書房(2004年) 定価(本体2,800円+税)

スマトラ島とジャワ島間のスンダ海峡にあるクラカトア火山は1883年8月27日に大爆発を起こし、標高800mの山はほとんど吹き飛んだ。爆発の衝撃音は地球を7周し、粉塵は地球を覆って連日夕空が血色に染まった。爆発に続いて高さ30m近い津波がジャワ島西部とスマトラ島南部を襲い、遠くフランスにまで達した。死者は3万6千人に及んだ。

クラカトア山の大噴火と大津波がなぜ起こったのか。その原因が解明されてゆく過程を、オックスフォード大学で地質学を専攻した著者ならではの視点で解説した本である。

1915年、ドイツの北極探検家で気象学者のヴェーゲナーは、世界地図で南米東海岸とアフリカ西海岸がなぜぴったり合うのかという疑問から、地球の陸地は超大陸パンゲアからローラシア大陸と Gondwana 大陸に分裂し、これらが更に現在の諸大陸に分裂していったとする大陸移動説を唱えたが、専門家からはまったく受け入れられなかった。1950年代になって、英国の地球物理学者ランコーンは、岩石が固まる時地球の磁極の方向の磁気を帯びるが、各地の岩石の残留磁気が現在の磁極の方向と一致していないのは、北極点が移動(地軸が変動)したからではなくて陸地が動いた証拠だと主張した。

さらに1955年には米国海軍の調査船で英国の地球物理学者メイソンがアメリカ西海岸の海底の磁気分布を調査し、海底に磁気の縞模様があることを発見した。海底の地殻からマグマが湧き出してできるこの海嶺の発見は、ヴェーゲナーがどうしても思いつかなかった海洋底拡大の決め手となった。1965年にはカナダの地球物理学者ウィルソンはハワイ諸島が誕生した順に並んでいることを突き止め、地球内部の溶融したマントルの対流によって地殻や大陸が移動する「プレートテクトニクス」を提唱し、地震発生や火山誕生のメカニズムを説明した。

そして1980年、オーストラリア・プレートのジャワ海溝への沈み込みこそが1883年のクラカトア大噴火を引き起こした原因と結論付けられた。こうして、今や常識となった地震・火山・津波の発生メカニズムが確立した。

この本が出版された直後に、スマトラ島沖でM9.1の大地震と大津波が発生して大惨事になったことは記憶に新しい。一方、日本列島へは太平洋、フィリピン海各プレートが沈み込んでおり、後者による東海沖・南海沖地震を警戒しなければならない時期に来ている。地球解明の壮大なロマンを知ると同時に警告の書として本書の一読をお勧めする。(池田記)

